

刊夕日八十月八



定額一冊五錢、一月五拾五錢、郵費別
廣告料五錢、一頁一日五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

う蘭盆縁起と 施餓鬼經の話

真繼 雲山

一、祖先を祭る尊き行事
昔から盂蘭盆會は、毎年七月十五日に、日本の津々浦々にわたりて、修せられる慣例であります。地方によつて七月十五日と八月の十五日とに分れ、それが又、新暦と舊暦によつて行はれますので、日本全国では殆んど一夏を通じて、お盆の気分につつまれるやうな感じがいたします。

盆は嬉しや別れた人も晴れてこの世へ會ひに来る

別れたといふのは、あの世への旅であり、その旅は生あるものに取つての必至の運命であるとは云へ、それはまことに悲しいことである。

ノート

蠅は大便に數十回も嘔吐する拜む様にして肢をするのは汚物を掃除する時だ

す。同時に、一たび別れたからには、肉身としては、永遠に會ふことが出来ない筈の約束も、信仰の上ではお盆を縁として年一度、先祖のたましひに觸れ合ふことが出来るかと考へ得るのは

嬉しいことです。悲しくもあり嬉しくもあるお盆は、信心に生くる私たちに、ついで、限りなき懐しさを覚えしめます。

お盆は、詳しくは盂蘭盆であり、もつてこれは梵語であります。その翻譯についで、

明日の献立

- 【朝】味噌汁——馬鈴薯小付 焼のり
- 【晝】から煮 いんげん
- 【晚】冷奴 花かつを焼肉 ソース

ては、六つかしい學説もありますが、要するに「救倒懸苦」となり、地獄に墜ちて倒まに吊るされてゐるほどの先祖のたましいの苦しみを救ふの意であります。

それを時と處とをひとしくして自他ともくく修するといふことであればお盆とは「倒懸苦救濟會」であります。先祖が必ずしも地獄に墜ちてゐると限つたわけではありませぬけれども、神通力なき私たち凡人としては、最悪の場合を慮りてそれに處すべき道を修するに越したことはありませぬ

同時に無力な私たちとして先祖の倒懸苦を救ふなど考へることは、固より僭越の沙汰でありまして、事實は

聖僧に囑して、法の如く修していただくの意であり、お盆とは要するに、父母や先祖のたましひを祭ることでありませぬ。

梵網經には「孝は至道の法なり」とあり、その「孝とは百行の基」といはれ、孝ありて初めて世に光があるのであります。年一度このお盆を縁として、斯かる尊き光りにめぐり合はせていただくことは、佛教徒として、この上なき有り難さであるばかりでなく、不信にかゝはらず、古へか

ら日本の隅々に行きわたる年中行事となつて來た習俗を懐しくも尊く感じます。

短歌

栗原 茅村

雨晴れの土の湿りに白芙蓉夕静かに影をつくれり朝霧は霽れ渡りたり見はるかす朝の町の静かなるかも

雨ばれの空にちらばる雲にさす日かげしづけし秋は來向ふ

我が家の風呂たぐ煙夕風に吹かれてなびく夏のたそがれ赤松の林はいとも静かなりとぎれ／＼にこぼるぎの聲

貸切の御用命

ぜひ、三井自動車部へ!!!

電話六八八五番

◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行

佛壇 位牌 佛具 特賣

早い目が御得です。品種豊富、選擇御自由、

平町三丁目三六(北裏)

漆器 佛具 卸商 共榮漆器店

中村齒科醫院

平町 鍛冶町 七

淨國院新盆に相當候處甚だ勝手がまし

く候へども提灯その他供物等一切御辭退申上候間御諒承願上候

平町 鍛冶町

施主 國府田直良

父白鴻院新盆佛事上小川村生家に於いて相營可申候處誠に勝手乍供物一切辭退申上候

白井 一郎

久全屋商店

磐城セメント會社 約店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は 〆の生命なり

盛夏の宵……

御散步のお歸りには

愛飲家諸氏の爲に生れた

酒の 家。喜多八へ

是非一度お立寄り下さる

大衆的酒場 素人小料理

酒の家 喜多八

平町世界館前(丸新デパート)

磐城共濟病院

(福島縣平町) 電話六四二番

小兒科	院長 山謙
婦人科	部長 賀一忠
外科	部長 坂本眞一
耳鼻咽喉科	部長 眞一
皮膚泌尿器科	部長 眞一
花柳病科	部長 眞一
X光線科	部長 眞一
衛生試驗所	部長 眞一

藥局 藥劑局長 鈴木寶雄

事務局長 鈴木寶雄

◎毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療

◎夜間診療開始(毎夜午後十時マデ)

◎病室完備 入院隨意

海のローカル

サンマ漁實況放送

アナウンサーが漁船に 乗り込んで魚群を追ふ

A・Kではローカル・カラー放送を一步進め今秋九月を期し秋刀魚流し網漁業の實況放送を行ふこととなつた。サンマ漁業は昨年九月二十日まで禁漁となつた關係上本縣漁船は日を期して一齊出動し千島色圓島沖合に至り南下魚群を待つて解禁と同時に投網漁獲するた。め陸上では想像も許さぬ壯觀を呈し實況放送は今から興味を以て期待されてゐる。計畫並に準備一切は縣水試がA・Kと打合せて行ふこととなつてゐるが大体漁船出港情景、漁獲物陸揚光景の三部となる豫定で期日は九月十八日午後と二十一日解禁を待つての初漁及び二十五日頃の陸揚となる筈である。只アナウンサーが漁船に乗り込み出動状況放送後魚群を追つて航行し定められた時間に都合よく魚群と遭遇し得るや否やの點が疑問とされるので尙一層研究することとなつてゐる。

本町の往來止めで

南町方面交通激増

破損箇所四百餘間に及び 應急の砂利敷き

平町では本町通り舗装工事の爲め着工以來諸車は往來止となり大部分が南町通りを迂回通行して居るので最近延間數四百餘間の破損箇所を出し交通にも差支へを生ずるので近く砂利敷きの應急修理を施す事になつた。

麥作收穫

平町の本年度に於ける麥作

小川青年改選 小川村青年團では来る廿一日午後

收穫高を町役場で調査したのに依ると大麥は百七十六段から四百六十二石是の收入三千六百九十六圓、小麥は五十二段から百廿四石、千四百廿六圓で收穫高は昨年と大差ないが賣上高に於いては昨年の半分に滿たぬ由。

後一時より同村小學校に於いて役員會を開き各分團幹部の改選を行ふと

梨園の實際を視察

本郡果樹組合から廿名

石城果樹聯合組合では組員廿名の一行が来る廿七日平驛午前四時四十二分發列車で本宮、福島方面に出發梨園の栽培並に經營の視察を行ふと

農工支店

貸出増加

農工銀行平支店における本年一月以降六月末日までの貸付けは三百三十三口三十萬八千八百五十圓でこれに七月中のものが七十口十萬七千九百五十圓合計三十八萬六千八百圓に上つてゐるが

災害復舊工事調査

内務省の技師一行來郡

十二ヶ處の現況

平土木監督所管内に於ける六、七兩年度の災害復舊工事中間検査の爲め内務省の杉村、村松兩技師は縣の遠

平商野球部が不出場打電

既報平商野球部は来る二十四日より三日間福島市營グラウンドに舉行される本縣體育協會主催の第一回關東北中等學校選抜野球大會出場諸否に關し本日服部教頭及び宮澤部長其他各係員參集協議したが費用等の關係で結局棄權する事に決定直ちに此旨打電した

海岸埋立地の利用

江名濱實現を圖る

江名町では目下着工中である仲ノ作漁港船塢附近六百坪を埋立て、實地並に倉庫整地とする計畫中であつたが去る十五日の町會にもそれが可決を見たので河野江名町長及び太、遠藤兩町議は十七日出縣陳情した

小野氏辭表撤回

小名濱町では此の程町會議の協議會を開き町長小野晋平氏に近く大審院より破産宣告取消の決定があるものと豫想し保留中の辭表撤回方を小野氏に交渉せる處同氏も快く同意したので町長問題は解決した

体操講習係員

既報来る二十七日より三日間平第一、第二及び平商各家庭に於て開催する事になつた本縣体操石城支部主催の郡下各小學校職員体操講習會の各係員は本日左の如く決定された

- (受附)上川 橋本(會計) 菅波 井上(接待)篠山 新家(準備)上川 橋本 横田 佐藤(記録)中村 瓜田(時間進行)井上 (貴重品係)當直員

平町人事

- 結婚 烟 △田町五一 薄葉順平(三六) 岐阜縣土岐郡駄知町一五六五井上ささ(三三)

て開業しただけに一般愛飲家よりの人氣すばらしく毎夜の如く賑ひを見せてゐる 等外看護婦

派出好評

平南町平看護婦會では篤實老練な看護婦を派出する外新時代の要求に應じ格安に等外看護婦を派出するので一般病院等より好評を博してゐる

酒の家が

毎夜繁昌

平田町丸新デパート酒の家喜多八は大衆本位の店とし

開業

石炭

一俵十八錢ヨリ 多少に拘らず御用命下さい、直ちに配達致します。

平町十五丁目

エビスヤ燃料店

電 四 六 番

東洋火災保險株式會社平中央代理店

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

平田町九六

白土會

喜多流 謠曲 仕舞 白土會 詳細は本會へ御問合せ下さい 電一二七番

別荘荒し?

錦村生れの男

植田署に身元照會

錦村字中田原生れ小松兼次(三)は去る十五日午前一時頃神奈川縣熱海町銀座通で密行中の熱海署員に誰何されるや二本指で目つぶしを喰はし逃走を計つたが格闘の未取押へられた處同人は懷中に双渡り六寸五分の出刃庖丁を所持して居り別荘荒を働かんとしたもので犯行は頑として口を割らな由にて本日植田署に身元を照會し來つた

始業式日割

佑賢は本日

平町に於ける各學校の夏休明け始業式は城山磐城佑賢學舎の本日舉行直ちに授業開始したのをトップとし左記の豫定である

磐城中學校 九月一日

恵まれぬ家庭に

明日給與金配分

方面委員が手分して出動

既報平町助成會では豫て調査中であつた貧困家庭五十六戸百卅二名への給與金支給に就いて本十八日午前十時より役場會議室に方面委員參集協議した結果明十九日方面委員及び役場吏員等夫々出動して一人最高二圓

犯罪現場に

自轉車急送

平署トラック購入

平署では事件の突發した際非常手配を行つて居るが今回更に敏活な活動を促す爲め犯罪現場に自轉車七八臺を一時に急送し得るトラック一臺を購入する事となつて近く一般から寄附の募集を行ふ筈

逃が歸る

雇主説諭願

内郷村大字綴字幕ノ内居住六戸二男喜長女美代(七)は三年間百五十圓の契約で東京市品川区大井瀧王子町三九四酒井淺治郎方で働く事となり内金六十圓を受取り二日働いたきりで去月十九日實家に逃げ歸つたので雇主は本日平署に説諭方を願

手に負ひぬ相續人

叔父から準禁治産申請

平町字彌宜町六八六谷榮治郎氏は甥に當る澤渡村大字下市萱字根岸一六三大谷東雄(三)を相手取り千葉辯護士を代理人として平支部に準禁治産宣告の申立を提起したが訴狀の内容に依ると甥の東雄は去る七年二月二十日實父が死亡した爲め家督を相續し七十二才なる祖父榮之助氏監督の下に家政を取り始めたが身持が悪く家に寄りつかないのを見るに見兼ねた親戚の人達は東雄の身を固めてやつたらば幾分は心も改るだらうと嫁を迎へ田、畑、山林等三十八筆の名義書換へ迄して自覺を促したが嫁を追ひ出す財産は賣拂ひ益々遊蕩は募るばかりなので此儘に座視するに忍びずと一家の將來を思ふて此舉に出たものであると

蛇を首に

薄氣味悪い男

昨日午後二時頃四倉町内を頸に縞蛇を巻つけて歩いてゐる青年があるのを署員が取押へ調べたところ此男は宮城縣名取郡六郷村生れ元新派俳優菅井定七(三)と云ひ縞蛇は十五日湯本町で蛇取男から騙取したものである事判明したが此外勿來、平、草野村等で植木鉢や腕時計並に一圓に満たない小錢を盗んだ事を自白した

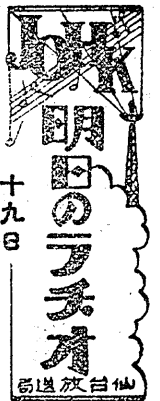
夏の夜の

素人角力

に納涼施設について協議の結果十九日夜から毎夜平警察署脇の廣場で花相撲を行ふ事となつた、子供、學生一般素人と分ける筈で頗る盛況を豫想されてゐる

裁判所たより

△昨報本日開廷する筈であつた勿來町大字關田宇南町一〇五前秋二犯銀治職眞船義道(三)に對する詐欺事件の判決言渡し公判は都合に依り來る二十七日に延期された



明日のラジオ

今晚も明日も北東の風晴曇半す

- 今晚の部
- 後六〇〇 子供の時間 童話劇 うづらごころも
 - 名古屋雛菊童話會
 - 後六二五 趣味講座「奥の細道を辿る」(終)北陸路松瀬青々
 - 後七三〇 講演 京城より朝鮮産業の姿と動き朝
- 鮮商工議所會頭賀田直治
- 後八〇〇 清元清元延古
 - 後八三〇 獨唱とピアノ
 - 小原威子 佐藤みさほ
 - 後九〇〇 時事解説 駐伊特命全權大使松島肇
 - 後九三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

- 明日の部
- 前八〇〇 國文學講座 「和歌」三岡崎義恵
 - 前九一〇 榮養料理献立 榮養研究所
 - 前九三〇 (子供の時間) 歌のおけいこ「子供のテキスト八月號特選童話」ダン道子
 - 前一〇〇〇 宗教講話 文學博士 高橋順次郎
 - 前一〇四〇 講演「皇典より見たる世界地圖」水谷清
 - 前一一一〇 野球試合實況
- 給料面談
- △出前持 二十前後 尋卒
 - △給料面談
 - △女中 二十前後 高卒
 - △月十圓
 - △鍛冶工 四十以下 尋卒
 - △給料歩合
 - △回職を求める方
- 給料面談
- △事務員 二十五才 中學
 - △半退 給料面談
 - △土工夫 卅五才 高卒
 - △給料面談
 - △鐵工 十八才 高卒 給料面談
 - △女中 四十六才 尋卒
 - △給料面談

外科

門專 科線光X

上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

難波 院

内科一般

醫學博士 難波 陸

平町大町新川端
電五〇二

源太の喧嘩

田邊南龍(作)
山本英春(書)

一三三

東西兩親分の出入

「左様で……」

「マア小荷は貴郎の子分な

ら放擲つちやア置かねえ唯

目ばかりバチクリやつて見

て居るとは歯痒い人達だ……

何うだ子分衆、俺がこん

なことを云つて居るのを腹

でも立つて此處へ出て喧嘩

アしねえか」

「この源太郎中々利口な奴

で、例へ斬られやうとも切

らうとも喧嘩をする家が鹿

島屋久右衛門、相手が朝比

奈藤兵衛、後には天王寺屋

五平と幡隨院長兵衛が控へ

て居るから何方へ轉んでも

損はない、藤兵衛と喧嘩ア

して飲み分けの兄弟分にで

もなると左官をしくつて

も、立派に親分株で世の中

が送れると云ふ目算だから

喧嘩がしたくつて仕方がな

い、藤兵衛の方は、藤兵衛

で賣る喧嘩を買はぬは資本

が高い故、こんな端な野郎

と喧嘩をしたつて詰らない

と目的を付けて居るから、

賣つて来る喧嘩を買はない

相手にならないから源太郎

は云ひ放題のことを云つて

歸つて来ると、途中で長兵

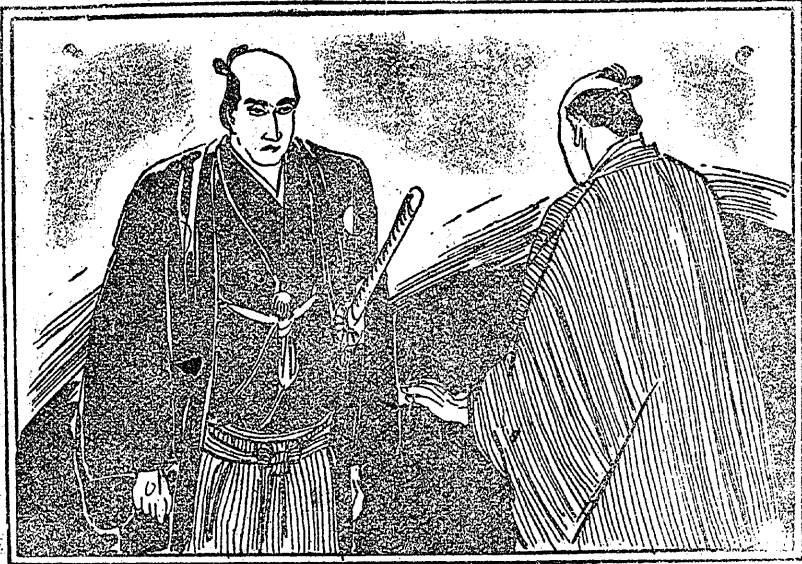
衛とバツタリ出逢ひました

「何うした源太郎」

「コレ、斯う、で……」

「さうか……貴様は天王寺屋へ行つて俺が歸る迄待つて居ろ」

「お出でなさいまし」
「私は江戸幡隨院の長兵衛藤兵衛どんにお目にかゝりたうございます」
藤兵衛をれへ出てみますと人品骨格いやしがらず威



いと云ふのを家へ歸つてマメ／＼待つて居ることはねえ」
と思つたから砂利を二ツ三ツ拾つて長兵衛の後を尾いて行く、藤兵衛は子分に言ひ付けて

「大方真正の酒ではあるま

い、水か小便でも入れて来たんだらう錐を入れて利いて見ろ」
と云ふから利いて見る眞誠の好い酒だ。
「合點が行かん」
と云ふところへ長兵衛が遣つて来る。
「お出でなさいまし」
「私は江戸幡隨院の長兵衛藤兵衛どんにお目にかゝりたうございます」

この大阪では水を溶びせてお近附になると云ふ事でございますから、藤兵衛さんお前の頭へ水を溶びせて、お近附になる積りでございませう、何卒一杯溶びてお呉んなさるやう」
「成程次第によつたら水も溶びませう、火の中へも飛び込みませうが、天王寺屋五平と御當家が中へ這入つて、お近附になつたら仔細はなさそうなるの敷から棒に水をあびて呉れる、ハイ長まりましたと云ふ次第には行きませぬ、マア此方へお上んなすつて」
「イヤ上るには及ばず、藤兵衛さん僅か一杯でもあびて貰はなけれやア、江戸の男の顔が立たねえ」
「左様でございますが、江戸の男と云ふものは強いものを挫いて弱いものを助けると聞きましたが大阪の男を潰しても自分の顔を立てたいのが江戸の男か、サア斯うなりやア天水垂程もあびることは出来ませぬ」

花柳病科 小兒科 内科 藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎 回文庫

電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)

すばらしい新型の

婦人子供服豊富

一流デパート専屬の婦人子供服製造元よりの直仕入たる新型服は店內豊富に陳列してございます。夜の御散歩には是非店内を御自由に御覽下さい。

平町二丁目

山家メリヤス店

電話六〇五番

是非!

御融通には御利用下さい
萬事便利な御相談に應じます

三井質店

平四・電六〇六番

夜 診 腸胃性病性

腸胃病科

内科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科

門 專

院醫科性病性胃腸村松

(番七〇一電町南町平)

療

間

石炭 石炭 石炭

平驛前



阿部石炭商店

電話三七番

耳鼻咽喉科

科専門

大和田醫院

平町南町一六(電話七一〇番)